

「教育特区の取組における組織・運営について」 ～小学校英語科教育推進における教頭の役割～

I 主題設定の理由

山梨市教育委員会では、平成15年に「英語に親しみ意欲的にコミュニケーションをしようとする態度の育成」をねらいとし、「英語活動」を導入した。その後、平成18～19年度「小学校英語活動地域サポート事業」(文部科学省補助事業)をうけ、小学校英語活動推進協議会を設置。平成21年から山梨市立岩手小学校が「教育課程特例校」となり市の英語教育の推進を成してきた。また、平成24年からは山梨北中学校区の4小学校(岩手小、日下部小、後屋敷小、八幡小)が教育課程特例校として「小学校英語科」を進めてきた。そして平成26年度からは市内全小学校11校が教育課程特例校としてスタートし「小学校英語科」を進めている。(現在は統合により8校)山梨市小学校英語科教育推進については教育委員会の指示のもとに市の組織(各校から推進委員が委嘱)を中心に進められている。しかし、主体的な特色ある学校づくりが求められ、そのための学校の権限の拡大が図られているなかでは、学校が自らその権限に責任を持って適切に行使していかなければならない。それを実現するには、教頭として、個々の教職員の活動をより有機的に結び付け、組織的な学校運営を行う体制を整えることが必要であると考え

る。そこで各校で実践している小学校英語科推進に、教頭が積極的に関わることで、教頭として、職員の意識や実態、研究組織づくりや取組などを振り返り、学校の組織・運営の活性化を図る事を目的として本主題を設定した。

II 研究のねらい

小学校英語科教育推進における教頭の役割を担うためには、まず、行政や学校の状況や実態、学校組織を構成する教員一人一人の意識と実態の把握を十分行う必要がある。その上で、

- 1 学校運営の活性化を図るためにどのように組織を整備し、運営を図ればよいか。
- 2 英語科推進に関わる小中連携はどのように行ったらよいか。

を主な内容として、教頭の役割を明確にすることをねらいとする。

III 研究計画

1 1年次(26年度)

- (1)市教育委員会の小学校英語科推進の組織と事業の整理
- (2)現状と課題の分析
- (3)英語推進委員会の課題と成果の共有
- (4)市内各小学校の教員の小学校英語科に対する意識と実態調査の実施①
- (5)意識と実態調査の分析

2 2年次(27年度)

- (1)教員・児童の意識調査の分析
- (2)学校の実状に応じた取組の実践を交流
- (3)小中学校の実践的な連携の検討

3 3年次（28年度）

- (1) 市内各小学校の教員の小学校英語科に対する意識と実態調査の実施②
- (2) 教員・児童・生徒の意識調査の分析と各校の実践の交流
- (3) 小中学校の連携の推進

IV 研究の経過（28年度）

1 教員の意識調査と実態把握の再実施及び児童・生徒の意識調査の分析

市内の全小学校が英語科の特例校となって3年目に入った中で、教員の意識の変容について探るとともに、課題解決にむけ、教頭として組織・運営の在り方・役割をさらに探るために、個々の教員の意識調査と実態の把握を再度実施した。また、山梨市内小学校全児童を対象とした「英語の学習に関する児童の意識調査」及び中学生を対象とした「英語の学習中学校1年生意識調査」の結果をあわせて分析し、小学校英語科における指導する教員と学習の主体となる児童・生徒の双方の関係を意識した取組の充実を推進した。

教員意識調査や児童・生徒アンケートの結果について研究会の中で各校の状況と照らし合わせて情報交換を行ったところ、組織運営上の成果や課題がいくつか挙げられた。

2 課題解決に向けた取組に向けて

教職員及び児童・生徒の意識調査の結果を踏まえて、次の項目を中心に取組を進め、その状況について共有し、各校における運営に生かしていくこととした。

- ①教師が英語の授業に自信を持てるための取組
- ②担任とALT・JTEとの連携を進めていくための取組
- ③児童に分かる楽しさを感じさせる英語科指導に向けた取組
- ④小中の連携を図る取組

3 各校での実践

各校において小学校英語科推進に教頭が積極的に関わりながら学校の組織・運営の活性化を図ってきており、会員相互の実践と提案・交流によって「教育特区である小学校英語科推進における教頭の役割」がより明確かつ具体的になった。特にこれまで課題の1つであった小中連携についても、中学校教員による小学校での出前授業の実施や小・中学校の教員による英語科に関する意見交換の機会を活用して、意図的・組織的な取組ができつつある。

V まとめと今後の課題

本研究では、山梨市における小学校英語教育への取組について、その推進に教頭が積極的に関わる事、教頭として職員の意識や実態・研究組織づくりや取組などを振り返り、学校の組織・運営の活性化を図る事を目的として主題を設定し、研究を積み上げてきた。

これまで、教員・児童・生徒の実態把握を基盤としながら、組織・運営のあり方、教頭としての役割を探ってきた。その中で、指導する教師側の意識と学習の主役となる児童の側の意識の双方向から課題とその解決に向けての方策を検討し実践を重ねることができた。また、会員相互の交流により市内小学校全体の英語科に関するレベルアップと教員の意識の向上に寄与したものと考える。

今年度は、3年計画の最終年度であったが、これからも教育の動向を見据えつつ、各校における実践を進め、教職員一人一人の資質能力の向上に加えて、学校運営組織体制や指導体制の改善・充実を図り、「チーム学校」としての教育力や課題解決力を高められるよう、教頭としての役割について実践、検討、改善を重ねていきたい。

（課題別研究部長 中村 雅彦）